

平成27年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

《 会員からの各市町紹介 》



■上越市副市長 関原 貢

皆さん、こんにちは。越後の国の国府の所在地、新潟県上越市の関原でございます。午前中に少し時間があつたので気比神宮参拝してまいりました。北陸道の総鎮守ということでございまして、わが越後の国ですね、社領（しゃりょう）があつたという風にお聞きしております。北陸新幹線が開業して大変便利になりました。今日は2時間30分ちょっとで、来ましたが、北陸道、ここから入ってですね、わが越後までですね、どうやって交流往来していたのか、そんなロマン、古代中世のロマンを感じながらですね、この会場にやってきました。それでは上越市の紹介をさせていただきます。1番目のところでございますけれども、上越市は、新潟県の南西部、日本海に面して位置する人口約20万人のところとして、古くから交通の要所ということで重要港湾である直江津港、それから北陸自動車道、上信越自動車道、それからJR東日本、越後ときめき鉄道、ほくほく線の第3セクター鉄道、などを有しております。さらに先ほども申しあげましたが、この春北陸新幹線が開業いたしまして、上越妙高駅がオープンいたしました。今後も上信越自動車道の今4車線化が進められており、陸海の交通ネットワークが結節する都市でございます。

2番目のところでございますけれども、上越市は海山大地に恵まれた自然豊かな地でございます。コシヒカリなどの農産物はもちろん、その高い品質の米で作る日本酒、上越市には12の酒蔵がございます。日本海で採れる海の幸、漬物や調味料、どぶろくやワイン、など数多くの発酵食品が作られています。新たなお土産開発にも力をいれてまして、made in 上越推進事業にも取り組んでいるところでございます。また、新幹線の開業により、東京はもとより富山、金沢、関西までの時間距離も短縮され当市にお越しいただきやすくなりました。この春、高田城、100万人観桜会（かんおうかい）と銘打っているんですけども、133万人のお客様にいらしていただきました。上杉謙信公をしのぶ「謙信公祭」というのがございますけれども、こちらガクトさんが出演するんでございますが、今年も24万人ということで過去最高となりました。この24、25日にはですね、越後謙信酒祭り、これも昨年も10万人ほどの方がご来場していただいております。どうぞ皆様もたっぷり酒を堪能できるよう車ではなく、北陸新幹線をご利用してご来場いただければありがたいなという風に思っております。次に発展を続ける直江津港でございます。直江津港は対岸の日本海沿岸諸国との定期コンテナ航路のほかですね、中部電力の火力発電所ですとか、国際石油開発帝石のLNG基地の立地を背景にLNG部門の日本海側拠点港に選定されております。さらに直江津港は佐渡の小木港とつながる、交通の結節港であります。関西、北陸圏から佐渡への最短ルートということでございます。4月にはですね、新幹線の開業の後、1か月くらいでございましたけれども高速化フェリーあかねというのが新たに就航しました。

従来2時間40分、直江津から佐渡までかかっていたんですが、これを1時間短縮、大幅短縮されまして1時間40分で行けるようになりました。新幹線の開業とあかねの開業で関西、北陸から佐渡へ大幅な時間の短縮がなされておまして、今年8月まで昨年比43%増と大勢のお客様にいらしていただいております。ぜひ佐渡にもおいでいただければという風に思っております。最後に今後の交流促進に向けてということで直江津地区では、平成30年のオープンに向けて新しい水族博物館の建設を予定しております。新しい水族博物館は日本海を十分に体感できる施設ということで日本一のマゼランペンギンですとかイルカショーなど、他にはない水族館を目指しております。観光は一つの都市だけでは楽しみに限界がございます。全国から当市を訪れていただけるよう今まで以上に関係自治体、特に日本海沿岸の皆様と連携しながら周遊観光の推進を図ってまいりたいと思っております。近くなった上越市にぜひ足をお運びいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。ありがとうございました。